

市長と語ろう！タウンミーティング 報告書

～ 高校生・移住者らと語る北秋田市について ～

令和2年11月28日（土）10：00～12：00

北秋田市民ふれあいプラザ（コムコム） 1階 多目的ホール

【出席者】

北秋田市長

津谷 永光 （つや えいこう）

秋田北鷹高校

今野 彩海 （こんの あやみ）

齊藤 遼河 （さいとう りょうが）

佐藤 塁 （さとう るい）

藤島 優輝 （ふじしま ゆうき）

大館鳳鳴高校

中田 裕生 （なката ゆうせい）

村上 優花菜 （むらかみ ゆかな）

能代高校

簾内 佑希菜 （すのうち ゆきな）

高橋 京 （たかはし みさと）

移住者

張 了了 （ちょう りょうりょう）

地域おこし協力隊

斎藤 美奈子 （さいとう みなこ）

コーディネーター

武田 昌大 （トラ男プロデューサー）

司会

三沢 聡（北秋田市総合政策課長）

（敬称略）

他、参加者 47 名

1. 開会

三沢課長

それでは、これより「令和2年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を開会いたします。本日司会進行を務めます総合政策課長の三沢と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに津谷市長から皆様にご挨拶があります。

2. 市長あいさつ

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中、タウンミーティングにお集まりいただき、ありがとうございます。

平成30年度からタウンミーティングとしてテーマを絞って開催し3年目になりますが、今年度は、コロナ禍ということもありまして、新しい生活スタイルを取り入れた形での開催となりました。

開催にあたり、ご協力いただきました学校関係者の皆様、また、高校生の皆さん、移住者の張了了（ちょうりょうりょう）さん、地域おこし協力隊の斎藤美奈子さん、傍聴に来ていただきました皆様、タウンミーティングにご参加いただきまして心より感謝申し上げます。

また、昨年に引き続いて北秋田市出身で現在、都内で飲食店を営む傍ら、秋田県内の地域おこしのためにご尽力されております武田昌大さんにファシリテーターをお願いしております。

武田さんにおかれましては、多忙を極めるなか、ファシリテーターをお引き受けいただきまして、改めて感謝申し上げます。

さて、高校生を対象として開催いたしました過去2回は高校生の視点から未来の北秋田市のための提言などをいただきました。

今回のタウンミーティングでは、高校生のほかに市外から移住してこられた方や地域おこし協力隊として北秋田市を盛り上げようと奮闘している隊員の方を交えることで、高校生が外から見た北秋田市に触れ合える良い機会になると思いますし、高校生、移住者、協力隊のつながりができ、新たな取り組みへの展開が期待できるものと思っておりますので、皆さんが、北秋田市に対して、普段から考えていることや感じていることについて、率直にお話をしていただければと思います。

高校生の皆さんの若い感性と県外から来られた移住者、協力隊からの目線によって、北秋田市に刺激を与えてくれるようなアイデアや気づきなどが沢山出てくるものと期待を寄せております。

あわせて、本日、午後1時30分より同会場において伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けたシンポジウムを開催いたしますので、ぜひそちらにもご参加していただければと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. ファシリテーター紹介

三沢課長

それでは、本日のファシリテーターである武田昌大さんをご紹介します。

武田さんは、1985 年北秋田市生まれ。トラクターに乗る男前農家集団である「トラ男」のプロデューサーとしてお米のネット販売サイトの運営や、五城目町にある古民家を活用した「シェアビレッジ」を立ち上げた他、今年 4 月には都内、日本橋の「おむすびスタンド ANDON」に続く 2 店舗目となる「お粥とお酒 ANDON シモキタ」を開業するなど様々な事業を展開しておられます。

これからの進行は武田さんにお渡ししたいと思います。武田さん、よろしくお願いいたします。

武田さん

武田と申します。今年で 3 年目になります。市長と高校生が話す機会というのは大変貴重なので、うまく皆さんの話を引き出せるように頑張りたいと思います。

私は、鷹巣町出身で、鷹巣小学校、鷹巣中学校、大館鳳鳴高校、立命館大学に進学しました。その後、東京でゲーム会社に勤めました。2010 年ぐらいからふるさとのために何かしたいということで秋田と東京を行き来しながら地域活動を行っていて、現在では会社を 3 つ経営しています。サラリーマンから起業家になったということでいろいろな話ができるかと思っていますのでよろしくお願いいたします。

前回、高校生から移住者についての話が出ていて、実際に接点がないというところから今回のようなスタイルになったと思います。今回は、貴重なゲストが 2 人も参加されていますので存分に交流していただければと思います。

4. 高校生自己紹介

武田さん

トークディスカッションに入る前に、皆さんに自己紹介をしてもらおうと思います。まずは高校生の皆さんから、今はまっていることを交えながら自己紹介をお願いします。その後に移住者、協力隊にお願いしたいと思います。

では、順番は母校である大館鳳鳴高校の中田さんからお願いします。

中田さん

大館鳳鳴高校の中田裕生（なかたゆうせい）です。私は最近、国際地理オリンピックの地理の勉強を頑張っています。今日は、みんなで北秋田市の発展について話をしていければと思っています。

簾内さん

能代高校の簾内佑希菜（すのうちゆきな）です。私は将来医学を学びたいと思っているので高校で勉強を頑張って大学に行って将来の夢につなげられるようにしたいと思っています。

藤島さん

秋田北鷹高校の藤島優輝（ふじしまゆうき）です。私は今、生徒会に入っていますが、その活動で北秋田市や高校の魅力をもっと引き出せるようなことができればと思っています。

佐藤さん

秋田北鷹高校の佐藤壘（さとうるい）です。私は農業科なので北秋田市を農業で発展させていければと思っています。

高橋さん

能代高校の高橋京（たかはしみさと）です。私は将来、助産師になりたいと思っているのでそのための能力を養いたいと思います。また、北秋田市で働きたいと思っているので、この機会に市の現状や将来どうすればよいのかを勉強できればと思っています。

村上さん

大館鳳鳴高校の村上優花菜（むらかみゆかな）です。私は、硬式テニス部に所属していて運動が好きなので部活にはまっています。将来は北秋田市でスポーツにかかわる仕事ができたらいいなと思っています。これまでは、地域について深く考えたことはなかったのでこの機会に地域の魅力について勉強できればと思っています。

今野さん

秋田北鷹高校の今野彩海（こんのあやみ）です。私は将来、地域経済について学びたいと思っているのでこのタウンミーティングを進路選択に活かしたいと思っています。

齊藤さん

秋田北鷹高校の齊藤遼河（さいとうりょうが）です。私は、公務員志望なので地域のことをいろいろ学んでいきたいと思っています。

張さん

中国出身の張了了（ちょうりょうりょう）です。私は日本に来て8年目で、阿仁に来て3年目になります。私は小さいころ母の仕事の関係で群馬にいたことがあります。群馬での暮らしがすごく楽しくて高校を卒業してからまた来たいと思って来ました。最初の2年は東京の学校に通って、その後に北海道の網走で大学4年間を過ごしました。大学時代に今の夫と出会って結婚しました。その夫が大学を休学しているときに阿仁と縁ができたので大学卒業後に北秋田市に移住しました。今は、知り合いの農家で主にネギを栽培していて道の駅などに出荷しています。

今年、阿仁スキー場で焼き芋を売るということに挑戦したいと思っています。

斎藤さん

今年の7月から地域おこし協力隊移住コーディネーターとして着任した斎藤美奈子（さいとうみなこ）です。私は、みなさんの年齢ぐらいのときに焼き鳥屋でアルバイトをしたのをきっかけに飲食店で働く面白さを知って、それから15年以上飲食に携わってきました。そのため、人に接することと食べることが大好きです。秋田に来たのもきりたんぽや美味しいお酒があるからという理由で来ました。これまでの経験を活かして食を通して北秋田に新しい人の流れを作っていければと思っています。今日は高校生の皆さんと将来の北秋田市についてディスカッションできることを楽しみにしています。

こむぎ子チャンネルというYouTubeを4月から初めて、登録者数1,100人を突破しました。目標では3年以内に100万人を目指しています。ぜひチャンネル登録をお願いします。

5. トークディスカッション

武田さん

それではここから、本題のトークディスカッションに入ろうと思います。

皆さんには、事前に市役所の担当者から、質問をさせてもらっています。

時間が限られておりますが、そのテーマに沿って皆さんと話を深めていきたいと思っています。

進め方としては、テーマごとに、まずは皆さんから順番に発表してもらいます。シートに書いているこ

とが中心になると思いますが、書いていないことを発表してもらっても構いません。

その後、市長から参加者の発表に対して、市が取り組んでいることなどを交えながら発言をお願いします。途中、私からも関連した質問などを織り交ぜながら、時間に応じて傍聴席の皆さんからご意見をいただきながら進めていければと思っています。

1つのテーマで、約30分のディスカッションを目処にして、3つのテーマを話していきたいと思っています。

最後には参加者から市長への要望や、市長から参加者へのお願い、さらには傍聴席の皆さんからも意見等をお話してもらえればと思っています。

はじめに「高校生が北秋田市に住んでいて感じていること、地域（地域以外でもよい）のためにやってみたいこと」をトークテーマにします。

まず高校生の皆さんから一人ずつこのテーマに関しての発表をお願いします

村上さん

私は、学校まで電車通学していますが、自宅から駅まで歩いているときに地域の方があいさつをしてくれるところが北秋田市の良いところだと思っています。近所の方以外にも初めて会った人でもあいさつをしてくれると地元のあたたかさを感じます。

やってみたいことは、小学生の時に伊勢堂岱ジュニアボランティアに参加していましたが、遺跡は市の魅力だと思うので世界遺産登録に向けてまた活動に参加していければと思っています。

タウンミーティングに参加する前に市について調べたら、市が移住者に来てもらうために空家バンクについての取り組みを行っているということで、その制度について知りたいと思いました。

高橋さん

私よりも上の世代の人達が学校を卒業して都会に出て行って進学、就職してしまうので人口減少が著しいと感じています。その理由として、市に職場が少ないのと働きたいと思う職種が少ないのが原因だと思います。そのため、市に多くの企業を誘致して帰ってきたいと思わせるようなになれば良いと思いました。

また、自然が豊かで空気がきれいだと思っています。奥森吉や三階の滝は水がきれいで空気が澄んでいて気持ちが良いのでそれらの強みを活かしてもっとたくさんの人達に来てもらえるようにしてもらえればと思っています。

人同士のつながりが深くてあたたかいのも市の良いところだと思っています。

やってみたいことは、能代の学校に通っていて能代で地域ボランティアやイベントに参加しているので今度は北秋田市のためにできる活動を行えればと思っています。また、将来は助産師になりたいと思っているので子育て中のお母さんのサポートなどをできればと思っています。

佐藤さん

市の良いところは農業などの第一次産業だと思いますが、サービス業や遊ぶところを増やすと雇用も生まれて街が活性化すると思います。

高齢者施設が充実していますが、学生が遊ぶ施設が少ないと感じています。

あきたこまちや果物など農作物が美味しいと感じています。

コムコムは生徒も利用していますが、高齢者が大半でイベントも高齢者向けの内容が多いと感じています。

やってみたいことは、北鷹高校の農業科なので将来は農業で地域に携わりたいと思っています。

藤島さん

市には宿泊施設が少ないと思っています。宿泊施設が多いと宿泊客が多くなって収入へつながると思います。コンビニが少ないと思います。

やってみたいことは、若者がたくさん来るような SNS 映えする場所を作ることです。ピンク色の場所やファンタジー風のスポットを鷹巣駅周辺に作れば鉄道マニアの人達がたくさん来てくれると思います。

簾内さん

高齢者向けの講座がコムコムでたくさん開かれていて高齢者が学ぶ機会があるというのがとても良いことだと思っています。

市には、くまぐま園や北欧の杜、森吉山などたくさん魅力がありますが能代市で話をしても知られていないのでパンフレットや動画などを使ってアピールをすればよいと思っています。

やってみたいことは、ボランティアとして高齢者福祉施設での手伝いや交流を行って高齢者の考えていることを学びたいと思っています。

市内の小中高生で異年齢交流を行って市を発展させていければと思っています。

中田さん

人口減少が一番の課題だと思っていて、移住者よりももともと住んでいた人が戻ってくることが一番良いことだと思っています。

やってみたいことは、現在行われていない祭りや行事などの復活やバス路線が廃止となった地区への移動販売、街中への送迎車の運行が実現できればと思っています。

小猿部川などを利用した釣り体験、長崎邸の PR、廃校舎を活用して小猿部地区を PR できるイベントを開催したいと思っています。具体的には、ツールドフランスを小猿部地区で開催できればと思っています。

齊藤さん

地域では高齢者が多くなっていて、学校では子供たちが少なくなっていて少子高齢化を感じています。

北秋田市は、移住する人が少なくて出ていく人が多いところが課題だと思っています。

市には有名な観光スポットはあるが、実際に住むとなるとショッピングセンターとかがなくて買い物不便です。

やってみたいことは、学校で土木を学んでいるので地震などの災害に関することで地域に携わりたいと思っています。

駐車場が少なくて店に入りづらいので駐車場を増やして店を回れるようにしたいです。

今野さん

遊べる場所や店が少ないので休日は大館市や秋田市へ行かないと遊べないと思っています。駅前にはお店がいっぱいあるのにシャッター街になっているのでお店をやらないのならシャッターアートを行えば明るくなると思います。

交通手段が少ないのでシャトルバスを設けたり公共交通の本数を増やしたりすれば住みやすくなると思います。

武田さん

たくさんの発言がありましたが、それらを踏まえて市長から発言をお願いします。

市長

たくさん出していただきましたが、私が普段感じていることや、市で解決していかなければならないという問題点を高校生の皆さんも感じていると思いました。

人口減少や高齢化は日本全国で問題になっていますが、そのなかで市では移住者が増えてきています。そのような方々と話をすると地域の人のあたたかさに助けられていること、店は少ないがそれほど買い物には不便はないという声もあります。しかし、高校生の皆さんが感じているように他と比べると足りない部分がたくさんあると思います。それをどのようにして解決していくかということですが、若い皆さんにどんどんチャレンジをしていただいて、それを手助けして行ければと思っています。

移住者支援としては空家バンク、お試し移住などの支援を行っています。今後は北秋田市に住みたいという方がもっと増えてくると思うので市民も含めてもっとPRを行って行ければと思います。

高校生の皆さんは、学校や普段の生活の中で幅広く問題点を把握していて、自分の将来に向かってやりたいことをしっかり持っているということに感心しています。

武田さん

高齢者とか移住者に対する支援というのはあると思いますが、若者が出て行ってしまっている現状でこのタウンミーティングで出ている若者の満足度に対する支援策はあるのでしょうか。

市長

高校生や中学生などの若い方がいろいろな活動をしていくうえでの具体的なことはまだ行っていませんが、いろいろな施策を展開していくうえで、高校生などの意見を取り入れるということはしています。先ほど異年齢交流が重要ではないかという要望がありましたが、北秋田市の地域おこし協力隊を卒業されました米倉さんが年齢層を問わずいろいろな方々からお話を聞くような機会を作ってもらっています。そのような動きがこれからどんどん出てくればと期待しています。

市としても高校生にまちづくりに参加してもらいたいと思っています。そのためのアイデアをどんどん出していただければと思っています。

武田さん

高校生の皆さんから、具体的にこうしたいという話が出ていていると感じています。例えばコムコムの利用の仕方など、市として若い人がチャレンジしたいというときに受け入れてくれる、応援してくれる窓口があると変わってくるとは思いますがいかがでしょうか。

市長

コムコムを作った時に高校生が気軽に語り合えるようにということで広くスペースを取っています。高齢者の利用が多くなって若い方との住み分けが難しいという課題も出てきています。今すぐに都会にあるような施設を作るとするのは難しいですので活用方法についていろいろなアイデアをいただければと思っています。

武田さん

以上で、ひとつめのトークテーマを終了したいと思います。

では、次にふたつめのテーマ「移住者・協力隊から高校生に聞いてみたいこと、高校生から移住者・協力隊に聞いてみたいこと」をトークテーマにします。

最初に、移住者、協力隊の方からお願いします。

斎藤さん

私個人の考えでは、10代、20代は秋田県を一度離れて違う土地で暮らしてもらいたいと思っています。私もオーストラリアやスペインで暮らした経験がありますが、離れることで初めてふるさとの良さに気付きます。高校生の皆さんの発表を聞いていて地元愛にあふれていると感じていますが、高校卒業後に秋田を出ていきたいと思っている人がどれくらいいて、将来戻ってきたいと思っている人は何人いますか。（※高校生8人中3名が戻ってきたいと思っている。）

先ほど中田さんから移住者を増やすよりも出た人が戻ってくることが大事という話がありましたが、私もそう思っていて、他の地域を見ることで自分の人生を充実させるために必要なものが何かということに気付かされます。それを皆さんにも感じてもらいたいと思っています。

武田さん

斎藤さんは、海外の生活も長いですが高校生の皆さんから斎藤さんに聞いてみたいことがあればお願いします。

佐藤さん

地域おこし協力隊の活動を教えてください。

斎藤さん

私も協力隊になるまで大学生のアルバイトの延長だと思っていて社会人がなれるものだと思っていませんでした。北秋田市に来て活動を始めてから地域の人に認知されていないなと感じています。私の活動は、移住定住促進に係る活動がメインで主に SNS を活用して情報発信をしています。今年度はコロナの影響もあって移住相談会などのイベントがキャンセルになっているので個人の定住に向けた活動に力を入れています。

個人の目標として、北秋田市で発酵カフェを作りたいと思っていてカフェだけでなくコワーキングスペースやワークショップスペースなどがある地域のみなさんのコミュニティスペースを作りたいと思っています。廃校舎や空家を再利用したものを作りたいと思っていて、そのために現在は地域の人とのつながりを作ることに力を入れています。

高橋さん

なぜ、北秋田市で協力隊になろうと思ったのですか。

斎藤さん

秋田県に行くということは決めていました。ただ、北秋田市は知りませんでした。そんなときに協力隊の募集をネットで見つけたので応募したのがきっかけです。北秋田市の美味しいものは来てから知りました。

武田さん

熊肉は食べましたか。どんな料理にすれば魅力が伝わるとおもいますか。

斎藤さん

赤ワインでじっくり煮込むとどうなるか試してみたいと思っています。

私は食のアップデートを行っていきたくて思っていて、北秋田市に良い素材があるのがわかったので今の時代、若い世代にどのようにアプローチして国内外に発信していくことで食の魅力を伝えて新たな人の流れを作りたいと思っています。

武田さん

食のアップデートはすごく大事で、北秋田市は食の宝庫で良い素材がたくさんあるのでそれをどうやって発信していくかということになりますが、私達が都内でお店をやっているというのは地元の食材を発信する場所にもなっていると思っています。そこで知ってもらって美味しく食べてもらうということが秋田には必要だと思います。

北秋田市には熊肉の加工処理場はないですね。

市長

西日本で鹿とか猪が農作物に被害を与えているということでその活用について活発で加工処理場が必要になっているということですが、北秋田市では解体できるところが一箇所しかありません。日本ジビエ振興協会というところがあって、熊肉といえば北秋田市ということでジビエとしてできないかという話

がありますが、熊をジビエとして出すとした場合に食材として出せるだけの個体数があるのかという問題があります。

また、マタギ文化として生活のために必要最小限の命だけをいただいていたという背景もありますので、斎藤さんにはそれらの文化も勉強してもらいながら取り組んでもらえればと思います。

市には素晴らしい食材がありますがそれらを地元で食べれるような環境が必要だと思うので斎藤さんには頑張ってもらいたいと思います。

武田さん

次に張さんお願いします。

張さん

将来何になりたいかを聞いたかったですけど皆さんしっかり考えを持っていて凄いと思いました。そのなかで農業をやりたいという人がいましたが、自分の家で農業をやるということでしょうか。

佐藤さん

家は農家ではありませんが、中学生の時に家庭菜園をやって農業が面白いと思って北鷹高校に入りました。そこで農業の楽しさを学ぶことができたんですけど、将来は農業高校の実習の先生になって農業の楽しさを生徒に教えられるようになればと思っています。

張さん

とてもうれしいです。高校生にとって農業がどういう存在なのか気になっていました。

武田さん

張さんは旦那さんとの出会いがあって北秋田市に来たと思いますが、女性の意見も気になるかと思います。結婚して秋田で暮らす的なことでの質問はないですか。

今野さん

海外から北秋田市に来るという経験はできないことだと思いますが、北秋田市の魅力は何か教えてください。

張さん

日本に来てから中国のことがよくわかるようになりました。最初から北秋田市に来ようと思っていたわけではなくて北秋田市がどこにあるかもわかりませんでした。夫が大学を休学したときにマタギに興味があって阿仁に来ていました。ちょうど結婚をするかどうかというときに安の滝を見ました。その時にすごくきれいで住んでもいいかなって思いました。

また、近所との付き合いが近づきすぎないのにあたたかいというところが魅力です。

齊藤さん

中国と北秋田市ではどちらが住みやすいですか。

張さん

上海は、アクセスやお店とかで不便はないですが人口密度が凄い高い（3,000 万人）。北秋田市は空気がきれいで人のストレスがないので私はこちらの方が好きです。

武田さん

3,000 万人都市というのが想像できないと思います。どんなですか。

張さん

通学のときに人が多くてバスに乗れない時があります。学校も一クラス 40 人が 12 クラスあります。

武田さん

東京もそうですが、実際に海外で暮らしてみると北秋田市との差はなんだと思いますか。

斎藤さん

海外と比べると言葉ですが、それは北秋田市も同じです。でも言葉は伝えようという気持ちが大事です。その気持ちがあれば相手が聞き取ろうという気持ちになってくれます。これは海外でも日本でも同じでそんなに問題ではないです。今は、ネット環境さえあれば仕事は場所を選ばないと思っています。田舎に仕事がないとは思ってなくて仕事はいくらでも作れると思っています。逆に田舎はビジネスに向いているところぐらいに思っています。

武田さん

逆に北秋田市に不便なところがありますか。

斎藤さん

正直、不便なところが出てきません。コンビニが少ないという意見がありましたが、私はこんなにあるんだと思っています。仕事が終わってふと夜空を見上げた時に無音の空間で星空に浸れた時に、「人生が充実している」と感じられるのが何よりも幸せです。

張さん

私も不便はないです。最初は鷹巣まで買い物に来るのがめんどくさいと思っていましたが、今は食材の配達もあるし、地域の商店もあるので不便はないです。

武田さん

私も不便はないと思っています。ただ、高校生からすると見た目の派手さがないのが唯一の問題なのかなと思っています。

市長

移住者、協力隊の方々からはあまり不便を感じないということでしたが、高校生は外の世界を経験していないのでわからないと思います。今はいろんなもので情報が入ってくる時代なので高校生からするともう少し便利にしてもらえればというものが出てくるのだと思います。

生活必需品を取り扱っているところはあるけれども、都会にあるようなお洒落なお店が少ない、お店の前を通った時に入りたくなるような工夫が必要だと感じていて、そこに高校生からのアイデアを募って取り組むというものも考えられるかなと思いました。

武田さん

これまでに商店街で高校生がインターン的な感じで働いて、お店にアイデアを出すというような取り組みを行ったことはありますか。

市長

具体的なものは行ってはいませんが、商工会などの協力を得ながら一緒に行ってアイデアを取り入れるということは考えられると思います。

武田さん

高校生からは今の商店街をもっと活性化してもらいたいという意見があるので、自分達が店主になった気分で高校生自身に考えてもらうというような取り組みをお試し的な感じでやってみると面白いと思いますが、どうでしょうか。

市長

実際に高校生が自分達ならどんな風に店を変えていくかということを気軽に話ができるような環境を作ってあげることが必要だと思います。そこは、お店の協力を得られるところを募って一緒に考えていくことが必要だと思います。

武田さん

これを実現させるためには、学校側、商工会側、どちらからアクションを起こせばよいでしょうか。高

校生はリアルな実態がわからないので賑わっていないと思っているだけだと思います。リアルを知ったなかで自分たちならこうするということまで考えることが勉強になると思うし、そうなると思街が変わってくると思うので早いタイミングで実現できたらいいかなと思います。

市長

両方からだと思いますが、市でもお手伝いはしていきたいと思います。

人口減少、高齢化が進むことがわかっているなかでどうするのかというところですが、商工会と連携しながら空き店舗の活用支援だとかということを行っています。若い経営者も増えてきていて、これまでの既存の商店とは違った取り組みを行っていることから注目も浴びています。そういうところが少しずつ増えてくると活気が出てくると思います。既存の商店で考えられない場合は、新しい経営者が協力をするというような形になればいいかなと思います。

武田さん

出来るところからでよいので商店と高校生が何か行うということにつながれば面白いと思います。

市長

行政として、高校生を含めて若い人向けにいろいろな面で支援はしていますが、具体的にみんなの力でまちづくりを行うというのが少し薄いかなと感じました。いろいろな企画や意見をいただいています但实际上に具体的な取り組みを行わなければならないと感じているので皆さんにも協力をいただければと思います。

武田さん

今日は、移住定住の話もありますので北秋田市への移住者数などがあれば教えていただければと思います。

市長

行政が窓口となったもので、H27 年度 8 世帯 9 人、H28 年度 10 世帯 13 人、H29 年度 36 世帯 43 人、H30 年度 28 世帯 41 人、R 元年度 46 世帯 64 人となっています。特に H29 年度から R 元年度で 146 人の方に来てもらっています。そのなかで転入者と転出者の差である社会減が令和元年度だと転入者が 609 人、転出者が 729 人で差が 120 人となっています。また、出生が 176 人に対して死亡が 805 人ということで自然減が 629 人となっています。社会減と自然減の合計で令和元年度で 749 人減少しているということになります。そのため、移住者が増えていくことはありがたいことですが、いかにして子供を産み育てやすい環境を整備していくかということが大事になってきます。そういうことから現在、地域おこし協力隊として結婚コーディネーターの募集をしながら北秋田市で結婚してもらえよう取り組みを行っていきたいと思っています。

武田さん

島根県でシングルマザーの子育て世代の移住が増えているというような事例を聞いたことがあります。お子さん連れの家族が移住してくるというスタイルもありかと思います。

市長

移住される方のスタイルは問いません。

また、地元で出会いの場がないという方に対してもいろいろアクションを行っていただければと思っています。

武田さん

ふたつめのテーマを終了したいと思います。最後のテーマとして、「移住者・協力隊から高校生に伝えたいこと、北秋田市で行ってみたいこと」をトークテーマにします。お二人から発表をお願いします。

張さん

高校生のみんなにもっと農業に興味を持ってもらえたらと思っています。授業だけでなく実際に体験することが大事だと思うので、生産、出荷、加工、販売など一連の動きを知ってもらえればと思います。また、資金の調達の仕方や補助金のことなども知ってもらえればと思います。そうするとイメージが出来るし、興味も湧くと思います。

武田さん

どこで農業に触れるかということだと思ったんですが、例えば街中にシェア畑みたいなものがあれば農業に簡単に触れられて身近なものになるのではないかと思います。そういうことは出来ないですか。

市長

北鷹高校の佐藤さんが農業に興味を持っているとのことで将来は指導者になりたいということでしたが、北鷹高校では実際にりんごや野菜を栽培したり、販売をしたりしています。このような体験を通して人と接して楽しみを得られるというのはとても良いことだと思います。

コロナ禍なので家賃の高い都会に事務所を構える必要がなくて地方の空気、水がきれいな場所でワーケーションという考え方もあります。北秋田市には農業の技術がある人もいますのでそういう人のところで体験をするということも出来るかと思います。

武田さん

市長が言ったようなことを行っていければ農業に触れられる機会が増えると思いました。

斎藤さん

若いうちに秋田、日本を離れていろんな人種、文化に触れてほしいです。挑戦するのに年齢は関係ないと思っていますが、年齢を重ねるとやりづらい環境になってくると感じています。その前にいろいろ挑戦してほしいと思います。

私が挑戦したいことは、SDG s（持続可能な開発目標）という 2015 年に国連サミットで採択されたものがありますが、それを北秋田市バージョンで市民の皆さんと一緒に取り組んでいけたら面白いと思っています。17 項目のなかの 11 に「住み続けられるまちづくりを」という項目がありますが、今の北秋田市の課題と当てはまると感じているので取り組めればと思っています。

市長

行政としても「住み続けられるまちづくりを」という項目がとても重要だと思っていて、そのような北秋田市を作っていかなければと思っています。そのために市民の皆さんには協力していただきたいですし、高校生の皆さんとも一緒に議論ができればと思っています。とても良い提案だと思うので皆さんのお力添えをいただければお願いしたいと思います。

武田

時間も少なくなりました。せっかくですので傍聴席から何かないでしょうか。

聴衆

「住み続けられるまち北秋田市を」というフレーズがありましたが、それを踏まえていくつかお話しさせていただきます。

行政で頑張っていていただいて移住者が増えていますが、高校生からもあったように地元の人の U ターンを考えてもらいたいと思います。北秋田市の良いところを一番知っているのはここで育った若者です。だいたいの人は一度は秋田を離れます。離れるまでにたくさん良い思い出を作してほしいと思います。

高校生の活用というお話がありましたが、市の文化祭の実行委員に高校生を入れて楽しく文化祭を提供したいと思います。高校生は良い意見をたくさん持っているので次回の文化祭の実行委員会には高校

生を入れてもらいたいと思っています。

秋田県人は自分を発信するということが欠けていると思うのでいろんな意味でどんどん発信して行けば良いと思います

武田さん

すばらしい意見が出ました。市長いかがでしょうか。

市長

大変ありがたいご提言です。

秋田県人が情報発信が苦手だというのは行政もその通りだと思います。このコロナ禍の取り組みとして、まずは県内の人に北秋田市の誇る観光資源を知ってもらいたいということで Gondola や 太平湖 の遊覧船などを無料にしたところたくさんの人に来ていただきました。ひとつの例ではありますが市の良いところを行政や事業者が一緒になっていろいろな発信の仕方について考えていかなければならないと思っています。

また、文化祭について非常に良いアイデアをいただいたと思っています。今日は教育長も同席していますのでしっかり検討をさせていただきたいと思っています。

武田さん

3年間やってくるとより具体的になってきていると思っています。後は、どのタイミングでやるのかだと思っています。この会を踏まえて高校生が参画するまちづくりが実行されてくるのではないかなと実感しました。

時間が迫ってきましたので最後に張さんと斎藤さんから感想をいただけたらと思います。

張さん

日本の高校生と一緒に語るのは初めてですが、私の高校生時代よりしっかりしていると思いました。

斎藤さん

高校生の皆さんと話をして刺激をもらったのと私ももっといろいろやりたいことが溢れてきています。スティーブジョブズも話していましたが、自分がイメージできるものは実現出来ると思っていて、実現できるかどうかではなくてやるかどうかだと思うので皆さんがイメージしていることを進んで実行してもらいたいと思いました。本日はありがとうございました。

6. 市長感想発表

市長

高校生の皆さんは本当に北秋田市のことを考えてくれていると思いました。

北秋田市を持続させていくために皆さんの力が必要になります。行政でも将来を担う高校生にも参画してもらおう施策を展開していくべきだと思いました。本日いただいたご提言を実行できるようにしたいと思いました。

本日はありがとうございました。

7. ファシリテーターまとめ

武田さん

年々着々と進んでいると実感しています。また来年が楽しみです。これで進行を事務局に戻したいと思っています。

ありがとうございました。

8. 閉会

三沢課長

これをもって「令和2年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を終了いたします。

このあと、午後1時30分よりこの会場にて伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けたシンポジウムを開催いたしますので、ぜひそちらにもご参加いただければと思います。

本日は、ありがとうございました。お気をつけてお帰り下さい。

市長と語ろう！タウンミーティング（写真集）





大館鳳鳴高校
村上 優花菜さん



能代高校
高橋 京さん



秋田北鷹高校
佐藤 塁さん



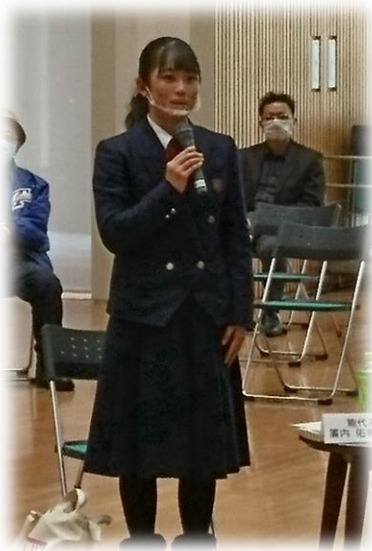
秋田北鷹高校
藤島 優輝さん



地域おこし協力隊
斎藤 美奈子さん



移住者
張 了了さん



能代高校
簾内 佑希菜さん



大館鳳鳴高校
中田 裕生さん



秋田北鷹高校
齊藤 遼河さん



秋田北鷹高校
今野 彩海さん

